

OR関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

OR関数の「役割」を理解する

OR関数の「役割」を理解する

OR関数は、それ単体では「真偽の判定」しかできません。

「〇〇だったらAを出す」といった処理はできず、TRUE（真）か FALSE（偽）を返すだけです。

=OR(論理式1, [論理式2], ...)

役割	イメージ
いずれか1つでも条件を満たせば TRUE を返す	「誰か一人でもOK」で TRUE

 **ポイント:** この「判定結果」を、次のスライドの「実行役」である IF関数に渡すのが、最も重要な使い方です。

【基本】IF関数と組み合わせる王道パターン

【基本】IF関数と組み合わせる王道パターン

IF関数は、「もし〇〇だったらA、そうでなければB」を実行する関数です。

複数の緩い条件のいずれかを満たす場合に処理を実行したい時は、この「〇〇」の部分（論理式）に、OR関数をそのまま入れ込みます。

`=IF( OR( [条件1], [条件2] ), [TRUEの場合], [FALSEの場合] )`

シナリオ： B2セルの曜日が「土」または「日」なら "休日"、それ以外は "平日" と表示したい。

数式例： `=IF(OR(B2="土", B2="日"), "休日", "平日")`

【実践①】 AND関数と組み合わせる（ネスト）

【実践①】 AND関数と組み合わせる（ネスト）

実務では、「かつ」と「または」が混在する複雑な条件をExcelで処理する場合があります。その場合、IF関数の中にOR関数とAND関数を入れ子（ネスト）にして使います。

シナリオ: 会員ランクが「ゴールド」または（会員ランクが「一般」かつ 購入回数が5回以上）の場合は「特別割引」と表示したい。

数式例: `=IF(OR(B2="ゴールド", AND(B2="一般", C2>=5)), "特別割引", "通常")`

解説:

◆内側の AND と外側の OR の実行

IF(OR(...)) の中に、

・1つ目の条件: `B2="ゴールド"`

・2つ目の条件: `AND(B2="一般", C2>=5)`

を入れることで、「ゴールド会員」か「お得意様(一般会員)」かを判定しています。

◆IF の判定

OR の結果が `TRUE` なら「特別割引」、`FALSE` なら「通常」を返します。

【実践②】IFS関数で、ネストをスッキリさせる

【実践②】IFS関数で、ネストをスッキリさせる

`=IF(OR(...), "A", IF(OR(...), "B", ...))`のような複雑なネストは、IFS関数を使うと劇的に分かりやすくなります。

シナリオ:「土日」は「休日」、「祝日リスト」にあれば「祝日」、それ以外は「平日」と判定したい。

IFS関数を使った数式:

```
=IFS( OR(B2="土", B2="日"), "休日", COUNTIF(祝日リスト!A:A, A2)=1, "祝日", TRUE, "平日" )
```

ポイント:

IFS関数は「条件、結果」のペアを上から順に判定していきます。最後に `TRUE` を入れることで「それ以外すべて」に「平日」を返し、#N/Aエラーを防げます。（※祝日判定は `COUNTIF` を使うと便利です）。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。